



スペシャルインタビュー

帯広北高等学校3年

三浦 憂^{ゆう}さん

プロフットサルチーム「エスポラーダ北海道」の特別指定選手としてFリーグデビューした幕別町出身の三浦さんに、プロの試合でプレーした感想や今後の目標を聞きました。

三浦さんは兄と姉の影響で小学校1年生から少年団でサッカーを始め、その後中学生までクラブチームに所属。帯広北高等学校では3年間サッカー部で技術を磨いた。将来の夢は「Jリーガーだったという三浦さん。フットサルを始めたきっかけは、「部活の引退試合後、監督の岩見先生に将来について相談した時、自分は小柄なこともあり、『フットサルをやってみないか』とアドバイスを受けました。それからエスポラーダ北海道の練習に参加するようになり、フットサルの魅力にハマりました。パスワークなどの細かい技や頭を使うサインプレーが多く、最初はついていくのに必死でした」と話す。

「初試合では大勢の観客に囲まれて緊張しましたが、次第に自分のプレーを見せられるようになり、日本人選手となら互角に戦えると感じました」とプロの世界での手応えを掴んだ。今年福岡ソフトバンクホークスに入団した古谷優人さんは小・中学校の同級生。今も親しくしており、お互いスポーツ選手として刺激合う仲で、今回の試合前にも連絡を取り合ったという。

ひたむきな努力で夢は叶う

「プロとして活躍するためには、まずは練習をしっかりとこなし、努力を怠らないことが大事だと思っています。1対1のディフェンスには自信があるのでもっと強みを伸ばし、子ども達に小柄でも活躍できると夢を与えられるような強い選手になりたいです」と意気込みを語った。

目標とする選手は、Fリーグで得点王を4回受賞したベスカドーラ町田の森岡薫選手。三浦さんの挑戦は始まったばかりだ。



三浦 憂 (みうら・ゆう)

平成10年8月29日生まれ・18歳
身長165cm、体重65kg

札幌南小学校、札幌中学校出身
小学校1年生でサッカー少年団「札幌WEED」に入団。その後、3年生から5年生までクラブチーム「プログレッション」でプレー。6年生で「幕別札幌FC」、中学校3年間は「帯北アンビシャス」に所属。高校のサッカー部では左サイドバックとして活躍し、今年1月、プロフットサルチーム「エスポラーダ北海道」の特別指定選手としてFリーグデビューを飾った。

Fリーグ(全日本フットサルリーグ)

Fリーグは、日本フットサル連盟によって平成19年に新設されたフットサルの全国リーグ。全国で全12チームが3回総当たりのリーグ戦を行っており、道内では「エスポラーダ北海道」が加盟。札幌、旭川、小樽、釧路などの7会場をホーム会場として試合を行っている。フットサルは、5人制の屋内サッカー。

第34回

忠類 ナウマン 全道そり大会

スピード賞3位

「あかり・ゆうと号」(幕別町)
タイム:11秒38

スピード賞2位

「ソアラ号」(帯広市)
タイム:10秒91

スピード賞1位

「シューティングスター★号」
(帯広市) タイム:10秒75

2月19日㊤、忠類白銀台スキー場で「第34回忠類ナウマン全道そり大会」が開催されました。今年は2016年の流行語大賞にノミネートされた「PPAP(ピコ太郎)」や、干支をテーマにしたものなど、ダンボール製とは思えない力作のそり35台が勢揃い。スピード賞上位3チームがすべて去年の記録13秒84を大きく上回るなど、デザインもスピードもハイレベルな戦いとなりました。

制作期間は約5日間。出場7回目ですりの名前通り念願の優勝ができました!



デザイン賞3位

「ツーリングIN忠類号」(足寄町)
斎藤井出建設(株)のみなさんの作品

デザイン賞2位

「ぎゅうまるしき戦車」(幕別町)
とJA忠類のみなさん

デザイン賞1位

「今年こそ号」(幕別町)と
平野さん、山田さんご夫妻

忠類丸山の埋蔵金伝説にちなんだ「埋蔵金拾い」